

臺灣島築城計畫ノ大要

第一 方針

- 一、將來ニ於ケル兵力ノ増強及採用戦法ニ即應シ統合一貫ナル築城計畫
- 二、基キ豫想敵上陸點附近ノ要地ニ骨幹陣地ヲ構築シ野戦陣地ノ中核ヲラシム
- 三、情勢ノ推移即應ノ爲重要地區ヨリ逐次完成ニ努ム

第二 要領

- 一、將來兵力増強ノ場合ヲ豫想シ作戰計畫ノ積極擴大化ニ對處シ遺憾ナキ如ク築城ノ規模及組成ヲ定ム
- 二、採用戦法ニ適應シ秘匿ヲ重視スルト共ニ利用部隊ノ潑刺タル戰闘ニ確呼タル後據支援ヲ與フル如ク戰闘、休養ノ兩面ヲ充足セシム
- 三、築城計畫ハ野戦陣地ヲ含ム統合一貫ナルモノヲ樹立シ水久陣地ト野戦陣地トノ分離ヲ戒ムルト共ニ補強修正ノ融通性ヲ保持セシム
- 四、現下浮動ノ情勢ニ鑑ミ先ツ奇襲上陸ニ適スル東部海岸及恆春地區ノ

完成ヲ急グト共ニ決戰指導ヲ重視スル高雄屏東地區繪イテ桃園平地ノ完成ヲ圖ル

五各地區築城ハ情勢ノ變化ニ隨時對處シ得ル如ク重要度ニ應ズル漸進稱築法ニ徹底ス

六築城ノ強度ハ「ヤメント」若クハ煉瓦卷ニアラザルモノハ努メテ地下三十米以上ニ在ラシム

七増加部隊ニ對シテハ到着後速カニ築城計畫ヲ說示シ且作業ニ勵スル教育ノ徹底ヲ圖ル

八臺灣島築城計畫一覽圖附圖ノ如シ
第三 各地區築城ノ特質

一 宜蘭地區

ノ沖繩攻略ノ飛行根據地奪取ノ目的ヲ以テスル敵ノ奇襲上陸若クハ敵ノ臺北攻略ニ伴フ支上陸ニ對應シ主トシテ飛行場確保ヲ目的トス

2. 臺北方面ヨリノ兵力轉用可能ナルヲ以テ其ノ進出路タル熊溪附近
隘路口ヲ押ワルト共ニ發達ナル前方一帶ノ深田地帶ヲ障礙トシ飛
行場直接ノ掩護陣地ヲ構築ス

3. 既設海岸側防符響ハ其ノ秘匿ヲ容易ナラシムル如ク偽工事ヲ多數
施設ス

三、花蓮港地區

1. 離島的存在ニ著目シ北及南兩飛行場ノ攻略ヲ企圖スル敵ニ對シ飽
迄持久ヲ策スルト共ニ敵兵力ノ漸減消耗ヲ策ス

臺東地區ト同時ニ攻撃セラルルコト多キニ鑑ミ獨力持久スルコトヲ
著意ス

2. 米崙山陣地ヲ骨幹トシ三棧溪及吉野西側高地ヲ鼎ノ三足トシ之ヲ
陣地ノ中核トシテ激刺タル奇襲攻撃ヲ遂行シ得シム

鹽寮港西北側陣地ハ其背後ニ設クル潜伏陣地ト相待チ戰喘ナル戰
闘ヲ持續シ最後迄孤立保持ス

三、臺東地區

1. 鯉魚地東側陣地ハ時日ヲ許スニ至ラバ遂次永久陣地ニ増強ス

2. 離島の存在ニ著目シ其ノ飛行場ヲ占領ヤント企圖スル敵ニ對シ飽迄持久スルト共ニ敵兵力ノ漸減消耗ヲ策スルニ適ヤシム

3. 花蓮港地區敵攻撃ヲ受ケザル場合ニ於テハ該方面ヨリスル兵力ノ増援ヲ期待シ得ルヲ以テ卑南西北側隘路口方面ニ背後連絡ヲ策ムル如ク施策ス

4. 鯉魚山陣地ヲ骨幹トシ加路蘭及知本西北陣地ヲ鼎ノ三足トシ激刺タル奇襲戰闘ヲ實施シ得シム

5. 知本温泉方面ニハ獨立セル一部兵力ニ依リ知本溪ニ沿ヒ持久抵抗ヲ爲シ得ル如ク施設ス

四、恆春地區

1. 離島の存在ヲ狙フ敵ノ攻略ニ對シ飽迄持久スルト共ニ敵兵力ノ漸減消耗ヲ策シ得ルヲ目的トス

2 高砂遊撃隊ヲ以テスル奇襲攻撃及時日ノ經過ト共ニ屏東平地ヨリノ
増援ヲ期待シ得ルコトアルベキヲ以テ四重溪谷地ノ保持ヲ確實ナラ
シム

3 龜山、頭溝、馬鞍山陣地ヲ中核トシ車城及大板埒方面ニ對スル反射
面陣地ノ利用ニ努ム

4 海口東北側高地ハ時間ノ許ス限り成ルベク速カニ永久陣地ニ増強ス
5 四重溪ヲ利用スル氾濫施設ヲ考慮ス

五 屏東地區

1 敵ノ眞面目ナル上陸企圖ニ對シ決戦指導ヲ容易ナラシムルヲ目的ト
ス

2 東高西低ノ地形の時負ト西部地域ノ水田發達ヲ利用シ努メテ敵ノ兵
力ヲ東方山地帯ニ吸收シ先ヅ敵兵力ノ漸減ヲ圖リタル後我方決戦ニ

有利ナル形成ヲ作爲スル如ク專ラ敵ヲ我方準備地域ニ誘發シ得ル如ク弱兵力ニ依ル數般抵抗ヲ容易ナラシム

3. 敵ノ旋回軸タル枋寮東北側高地ノ保持ヲ確實ナラシムルト共ニ東港方面ヨリスル敵ノ迂回滲透ヲ有利ニ火制シ得シム之ガ爲鳳鼻頭高地ト相待チ戦利十五加ノ陣地ヲ有利ニ選定ス

4. 鳳鼻頭トノ連鎖樞軸ヲ形成セル仙公廟北側臺地ノ陣地ヲ強化シ機ヲ待テ之ヲ水久築城ニ増強ス

六、鳳鼻頭地區

1. 敵ノ眞面目ナル上陸企圖ニ對シ我方決戦指導ヲ有利ナラシムルコトヲ目的トス

2. 本地域ハ海岸地帯ニ於ケル我方決戦至難ナルノ地形ニ鑑ミ鳳鼻頭臺地ヲ孤立保持シ十分敵兵力ヲ誘致シタル後決戦ヲ索ムルニ有利ナラシム

3. 鳳鼻頭高地前端ハ敵砲火ニ暴露シ斜射側射火力熾烈ナルヲ考慮シ特

ニ堅固ニ施設シ特ニ地下坑道ノ掩護土層ヲ十分ナラシム

六、速ク高雄港及佳冬方面海岸ヲ側射シ得ル如ク戦利十五加ノ威力アル陣地ヲ選定施設ス

七、高雄地區

一、鳳鼻頭地區ト關聯シ高雄港ノ領有ヲ企圖スル敵上陸兵力ニ對スル堅固ナル據點ヲ形成スルニ在リ

二、本要塞ハ施設舊式ニシテ各砲殆ド暴露シアルヲ以テ全部之ヲ地下ニ收容スルト共ニ背面ニ對スル防禦威力ヲ速急ニ増大ス

三、鳳山北方高地ハ高雄、屏東兩平地ニ對スル策源地帯トシテ先ツ野戰陣地ヲ以テ複郭ヲ形成スルト共ニ要地ニ對シテハ若干ノ永久施設ヲ準備スルニ努ム

八、大小崗山地區

一、屏東平地ノ孤立化ヲ圖ル目的ヲ以テ岡山附近交通遮斷ヲ企圖スル敵ニ對シ其ノ兵力ヲ漸減消耗ヤシムルヲ目的トス

2 壽山海軍砲臺、螺定山（彌陀南側臺地）小崗山、半鼻山ヲ四隅トス

ル相互火制地帯ヲ構成シ得シム之ガ爲海軍陣地施設ヲ協定指導ス

3 螺定山ハ孤立之ヲ保持シ得ル如ク四周ニ對シ堅固ニ施設ス

但泥火噴出ニ對シ豫メ十分ナル施設ヲ攻究ス

4 小崗山ハ海軍洞窟施設（海軍兵器工場）ノ一部ヲ利用ス

九 臺南地區

1 高雄、屏東地區ノ孤立化ヲ圖ル爲交通遮斷部隊ノ上陸ヲ阻止スルト

共ニ北万兵力ノ機動ヲ有利ナラシムルヲ目的トス

2 海軍ヲ協定指導シ、臺南飛行場附近ニ堅固ナル「トーチカ」群ヲ

施設シ縱深性ノ採用ニ努ム

3 水田ノ沼田化ヲ徹底シ之ト築城トノ協調ヲ圖ル

十 臺中地區

1 臺中飛行場群ノ領有ヲ企圖スル敵ノ空挺攻撃ヲ破挫シ得ルト共之

ニ連繫シ新高築港施設領有ヲ企圖スル敵ニ對シ敵兵力ノ漸減消耗及

爾後ノ兵力集中ヲ有利ナラシムルヲ目的トス

2. 敵空挺部隊破壊ノ爲ニ大肚山飛行場及臺中飛行場ノ要地ニ防空塔

（地下約三十米ニ施設ヲ有シ兵力約一大隊ニ應ズル棲息ヲ容易ナラ
シメ得）ヲ構築シ野戰陣地ト相俟テ敵降下ノ初動ヨリ之ヲ擊退シ

得シム

3. 新高築港（梧棲港）ニ對シテハ清水及沙鹿ニ永久陣地ヲ構築ス

去後龍地區

1. 山嶮海岸ニ最モ迫レルト地形上陸ニ容易ナリトノ利ニ依リ臺灣南北

ノ交通遮斷ヲ企圖スル敵ニ對シ極力持久スルト共ニ敵兵力ノ漸減消
耗ヲ策スルヲ目的トス

2. 後龍南側及北側各高地ヲ骨幹トシテ施設シ後龍海軍飛行場ノ制壓ヲ

容易ナラシムルト共ニ野戰陣地ノ中核ヲ形成セシム

去新竹地區

1. 新竹海軍飛行場ヲ領有スルト共ニ南方ニ對スル交通ヲ遮斷シ桃園臺

北平地一帯ノ大規模上陸ヲ企圖スル敵ニ對シ其ノ上陸初動ヲ妨害スルト共ニ新竹東南側高地一帯ヲ保持シテ南方ヨリスル兵力機動ヲ容易ナラシムルヲ目的トス

2. 香山大庄及孔子口山（舊港東北側高地）ニ堅固ナル支撐點ヲ形成シ相互側防支援シ得シム

3. 香山方面ヨリスル敵ノ迂回ニ對シテハ野戰陣地ヲ以テ之ニ充ツ

4. 孔子口山ヨリ紅毛海軍飛行場（同山北側）ノ火制ヲ有利ナラシム
去桃園地區

1. 桃園飛行場ヲ占領シ臺北攻略ヲ企圖スル敵ノ眞面目ナル上陸ニ對シ決戰指導等ノ支撐點ヲ形成スルヲ目的トス

2. 樹林口西側臺地ニ堅固ナル據點ヲ占領スルト共ニ中壠西南側臺地ニ規模大ナル複郭陣地ヲ構築シ潑刺タル機動防禦ニ依リ敵ヲ漸滅消耗シタル後決戰指導ノ好機ヲ作爲シ得シム

3. 當初南嶺下附近ニ永久陣地ヲ構築シ桃園飛行場火制ノ側防砲兵ヲ施

設スルト共ニ野戰陣地ノ骨幹ヲラシメ爾後時日ノ余裕ヲ生ズルニ從
ヒ水久陣地ヲ斷聯施設ス

十 淡水地區

一 臺北直接攻略ノ目的ヲ以テ桃園平地ト斷聯シ淡水北側ヨリ迂回上陸
スル敵ニ對シ持久ヲ策スルニ有利ナラシムルヲ目的トス

二 淡水北側及八里東側ノ陣地ヲ中核トシ木規頭ニ直リ水久施設ヲ延伸
ス

第四、作業部署

一 從來實施シアリシ淡水、孔子口山、宜蘭、台東、花蓮港、恒春、枋寮
工事ハ引續キ實施ス

二 第一野戰築城隊ノ主力ヲ台東、花蓮港ニ増強スルト共ニ更ニ恒春方面
築城ノ速急完成ヲ期スル爲恒春築城部隊ヲ編成シ九月末概成十一月末完成
ヲ目途ニ工事ニ着手ス

三 鳳鼻頭及枋寮附近工事ノ爲臺灣總督府土木課及臺灣電力等民間技術者

ヲ以テ臺灣軍樂城別荘ヲ編成シ八月ヨリ工事ニ著手ス

二三一

四、台南築城ハ海軍ト協定シ陸軍指導ノ下ニ海軍施設部ヲ以テ實施ス

五、台中防空塔施設ハ軍樂城班直轄トシ計畫ニ基キ直チニ著手ス

第五、人員 資材

一、人員取得ノ爲密ニ飛行師團ト協調ス

二、「セメント」取得量ヲ海軍ト交渉シ陸軍五、海軍三、民間二迄向上ス

三、鐵材取得ノ爲佳冬飛行場建築用材、台電大安溪發電廠建設資材ヲ充用ス

ルノ外岡山及台南航空隊破壞格納庫ヲ收受ス之ガ爲酸素ノ入手ニ關シ

海軍ノ援助ヲ依頼ス

四、花蓮港、台東方面輸送促進ノ爲機帆船ノ協力ヲ要求ス

五、東部海岸砂族使用ノ爲鹽及綿布ヲ可及的多量收集ス

附錄

臺灣築城構想ノ一例 附圖其ノ一乃至其ノ六ノ如シ

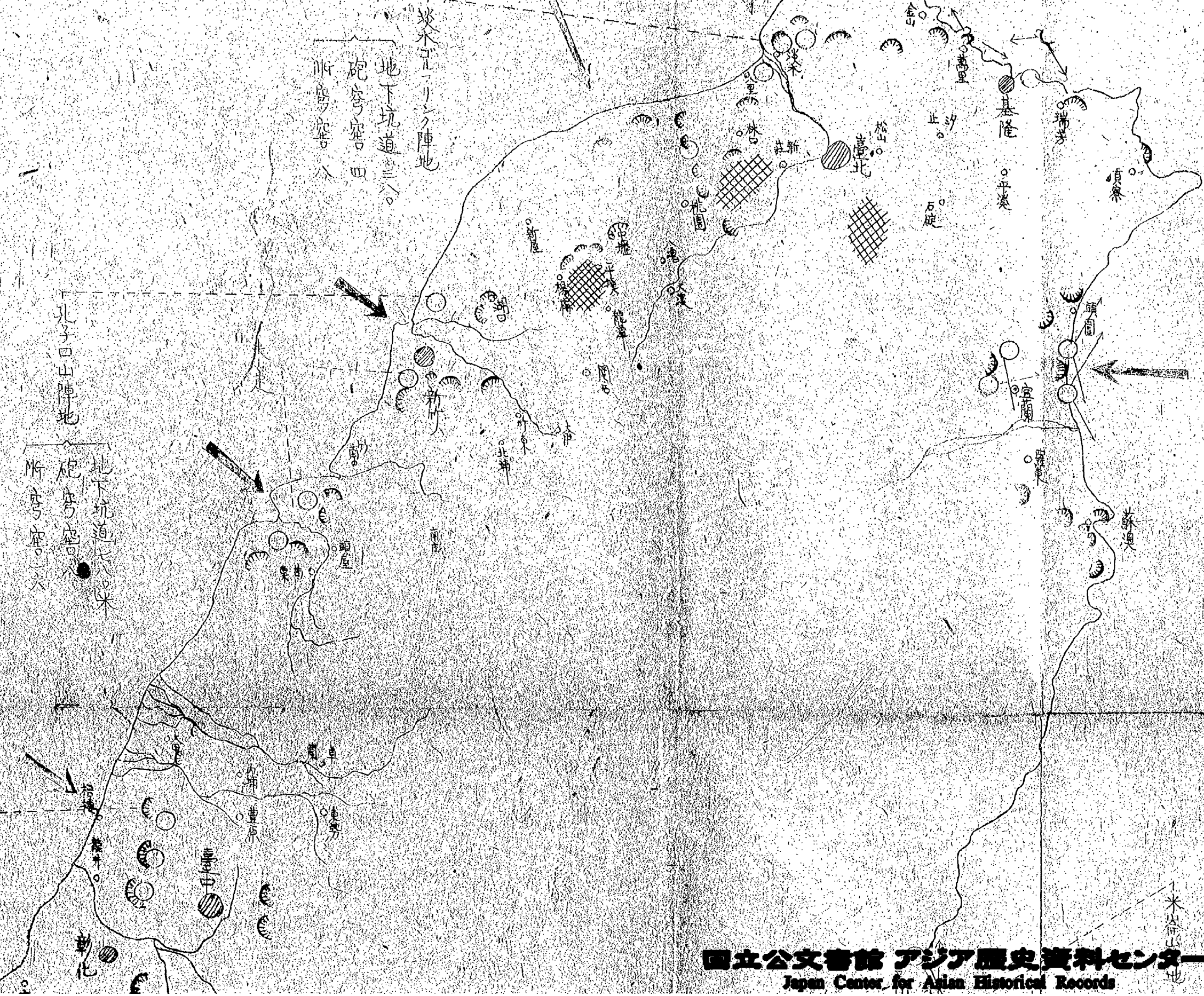
分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	<table border="1" data-bbox="699 595 1123 1070"><tr><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6
1	2						
3	4						
5	6						
分割撮影した理由	A3版以上のため						
文書等名	臺灣島築城計畫一覽図 (昭和十九年八月四日)						
上記のとおり分割撮影したことを証明する。							

1058
1059
1060
1061
1062
1063

臺灣米山坑計畫一覽圖

(昭和十九年八月四日)



淡水ゴロリシク陣地
地下坑道三〇
砲臺砲口四
所砲口砲六

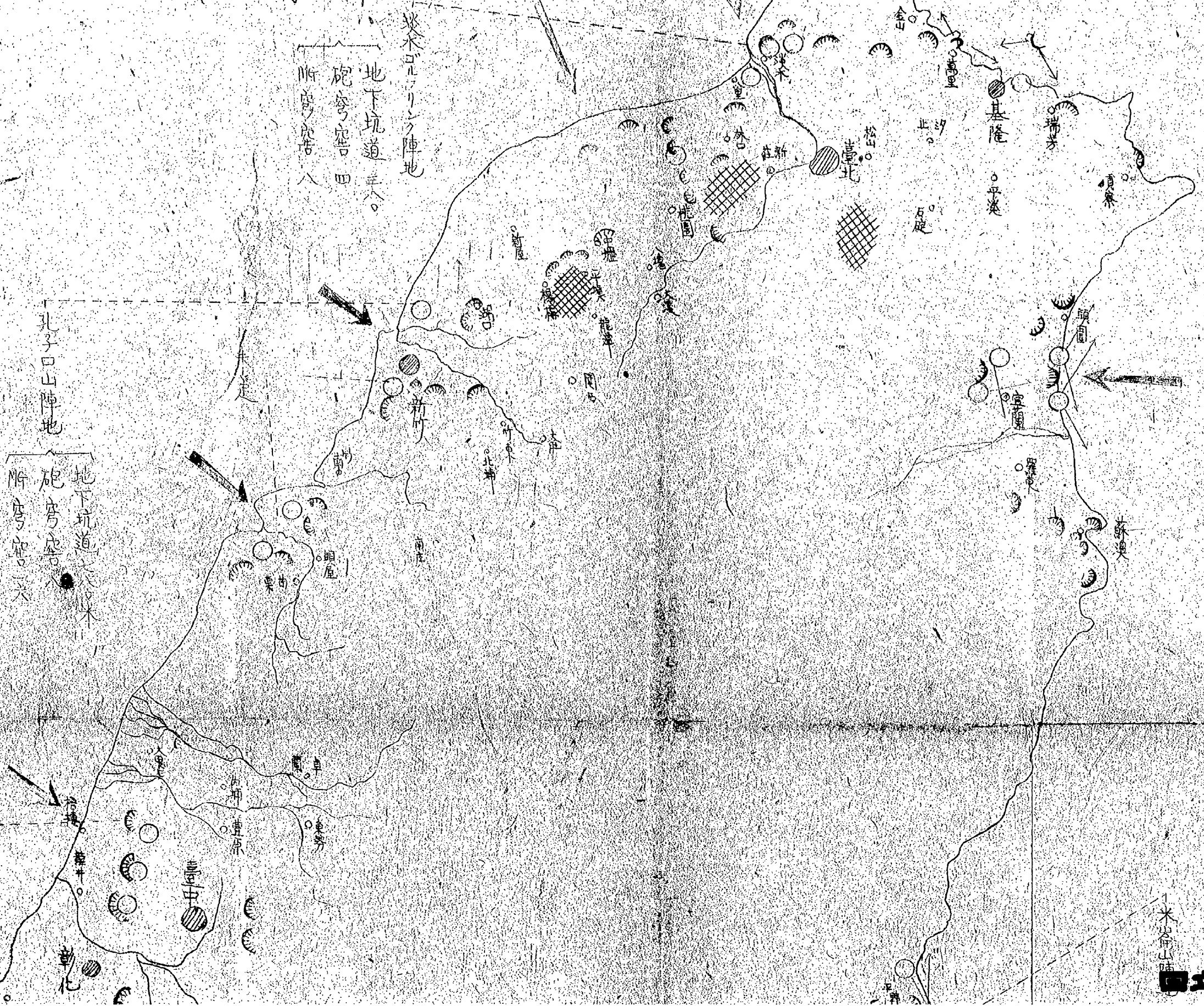
孔子口陣地
地下坑道七〇米
砲臺砲口六
所砲口砲六

大津山
三
二
一

臺灣築城計畫圖一覽

(昭和十九年八月四日)

臺灣築城計畫圖一覽



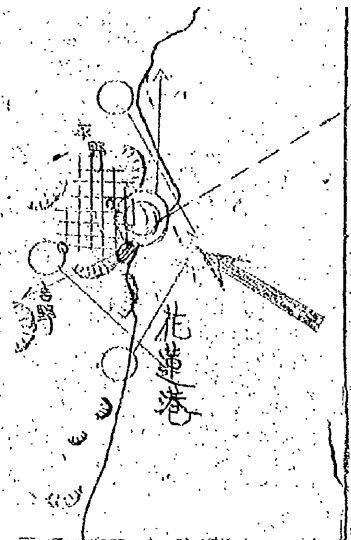
基隆
機槍陣地
地下坑道
砲臺
附近砲臺八

基隆山陣地

基隆
地下坑道
砲臺
附近砲臺六

基隆山陣地

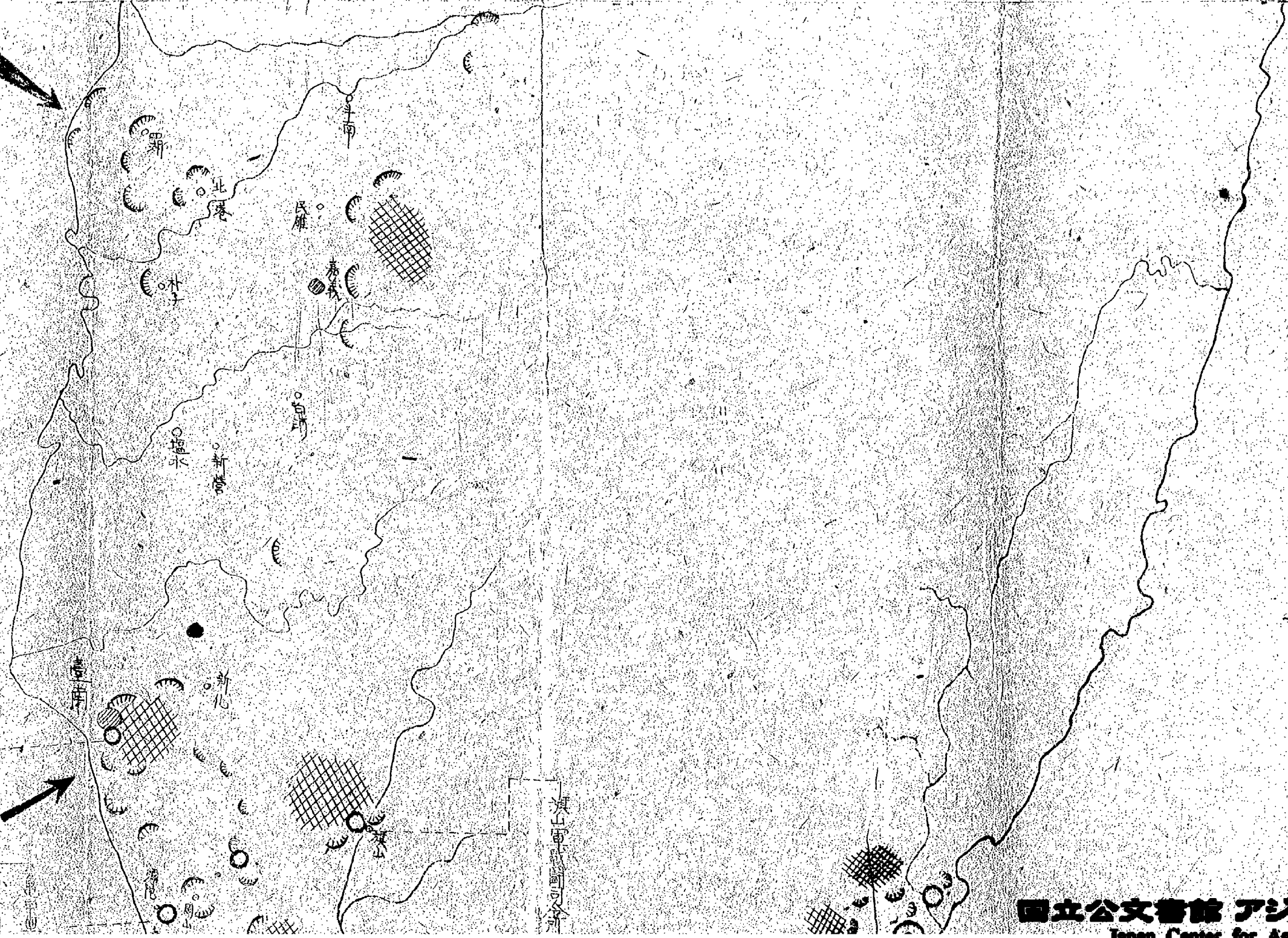
小高山陣地
地下坑道は、米俵の形
枕高は、大層、約二入



十層陣地(地下三十米)
溝は、井子頭、粗同様



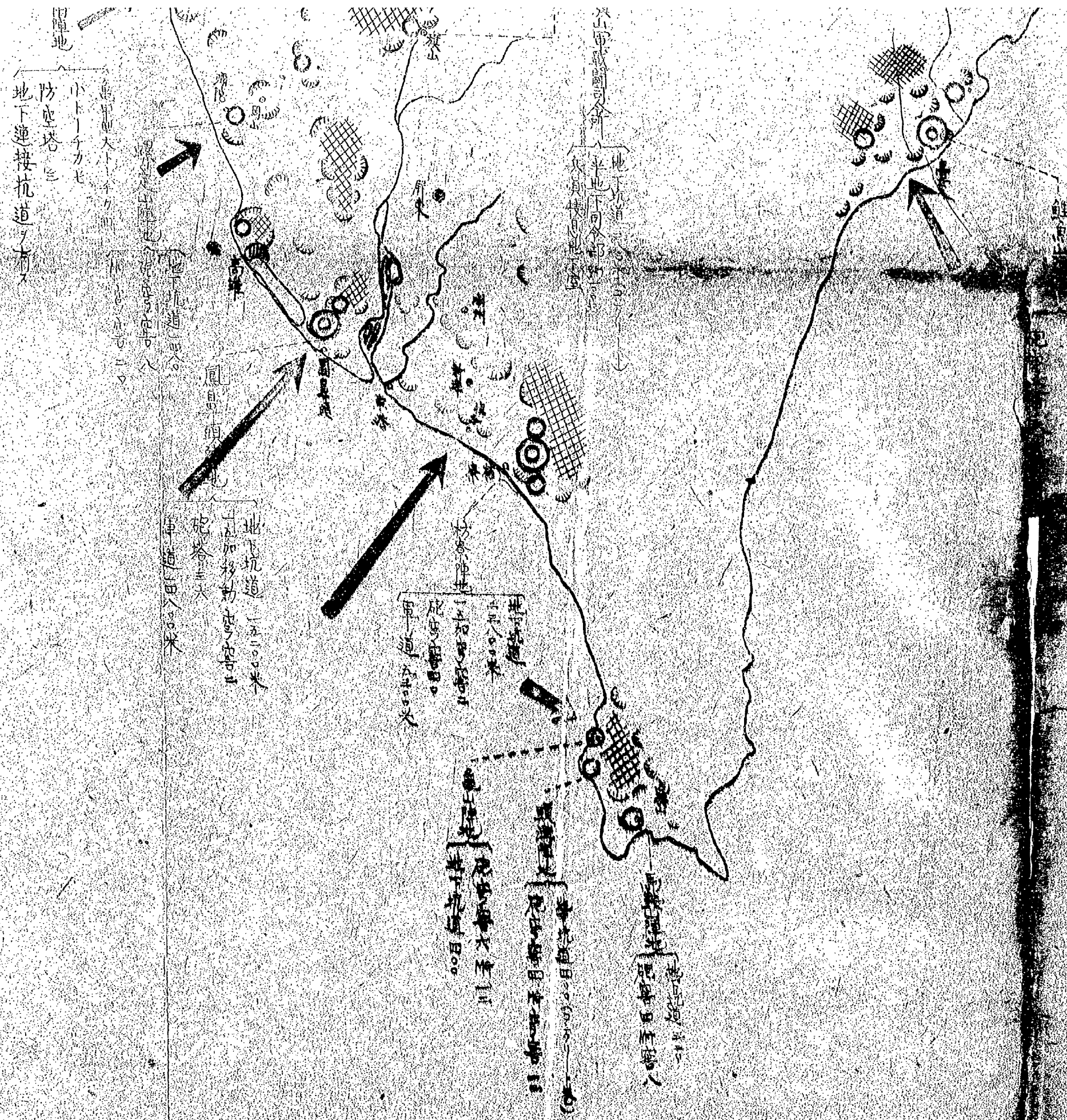
防座
地下部



東子陣地(地下三十米)



釜山陣地
地一坑底六十米深港
砲台三ヶ所六門砲一門



防空塔
地下連接坑道ノ有リ

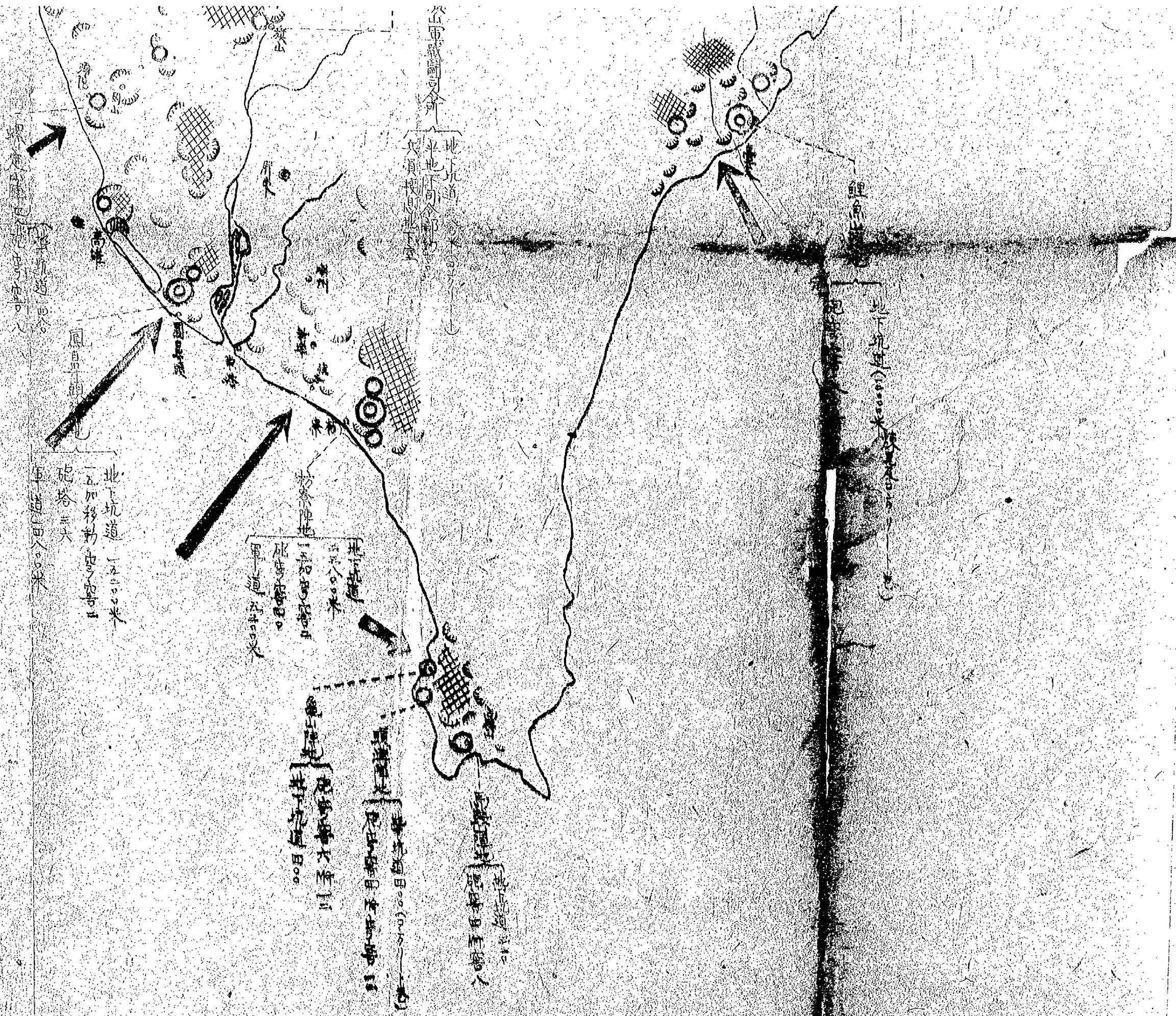
防空塔
地下坑道ノ有リ

防空塔
地下坑道 14100米
口径 4.00米

防空塔
口径 3.00米

防空塔
口径 2.00米

防空塔
口径 1.50米



公軍司令部
地下坑道 (1500米)
砲台 (360米)

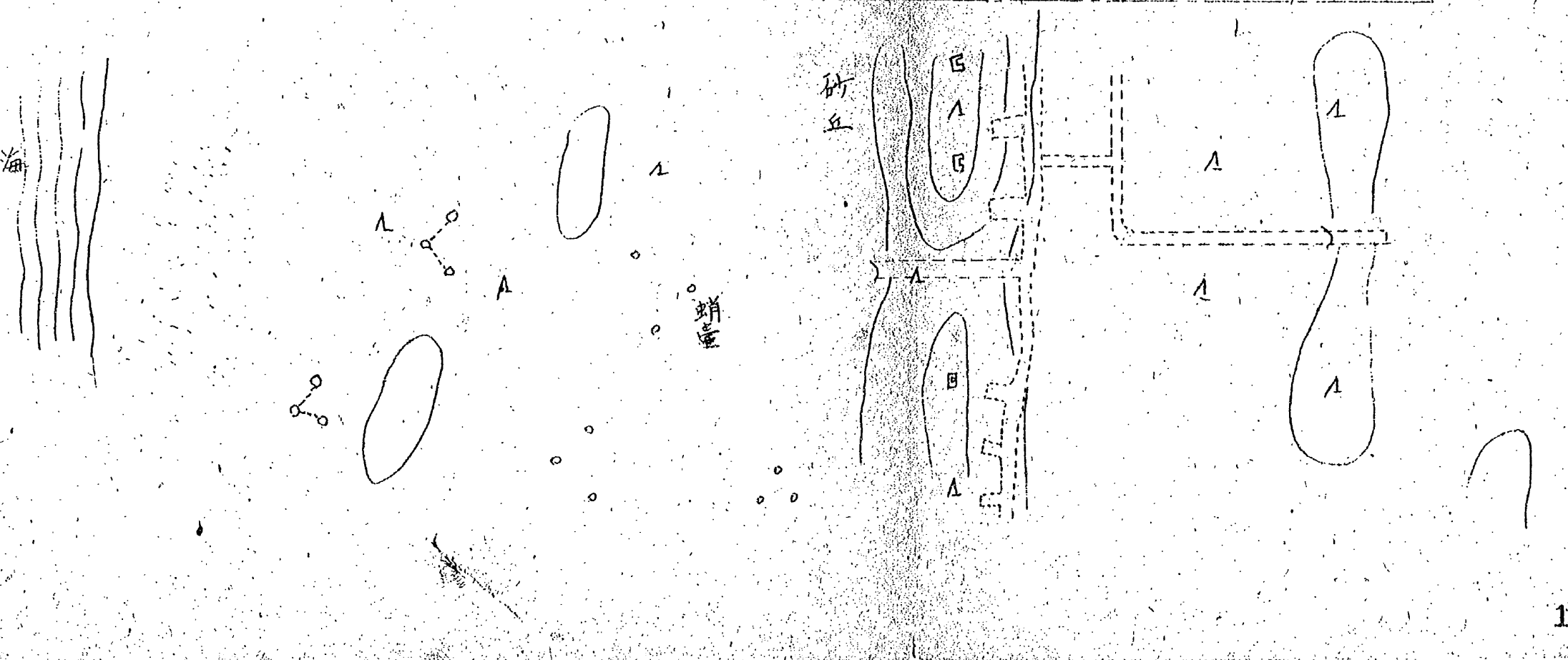
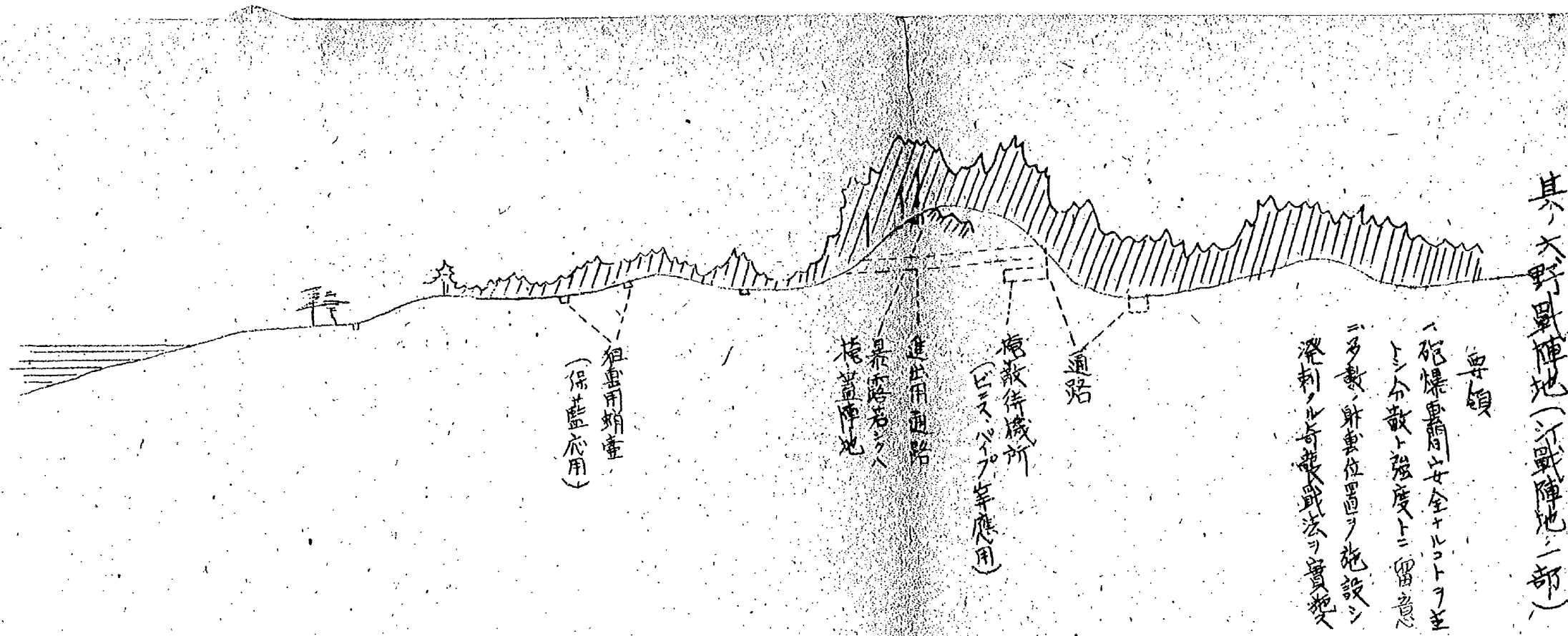
地下坑道 1500米
砲台 360米

地下坑道 1500米
砲台 360米

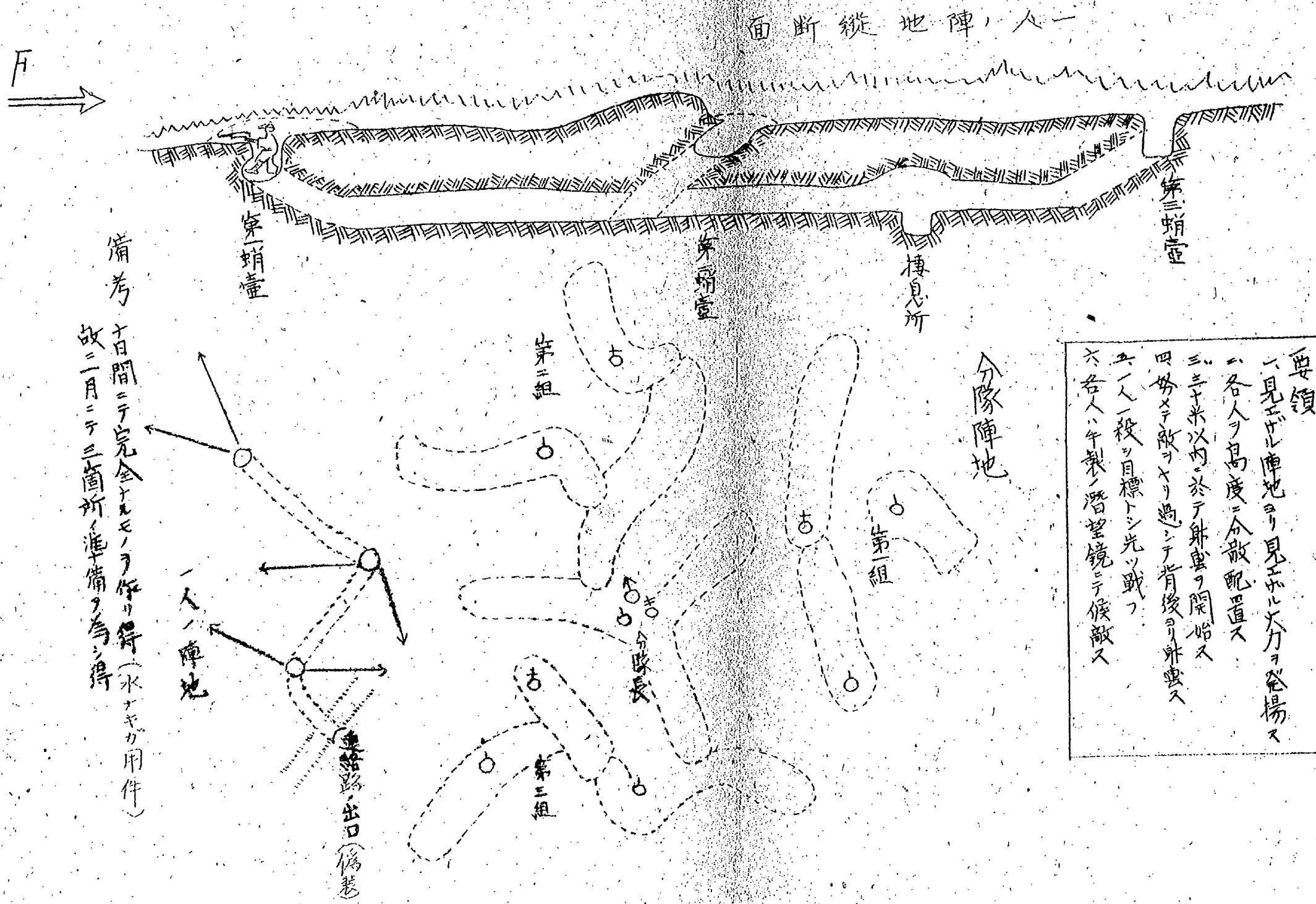
砲台 (360米)
砲台 (360米)
砲台 (360米)

砲台 (360米)
砲台 (360米)

地下坑道 (1500米)
砲台 (360米)

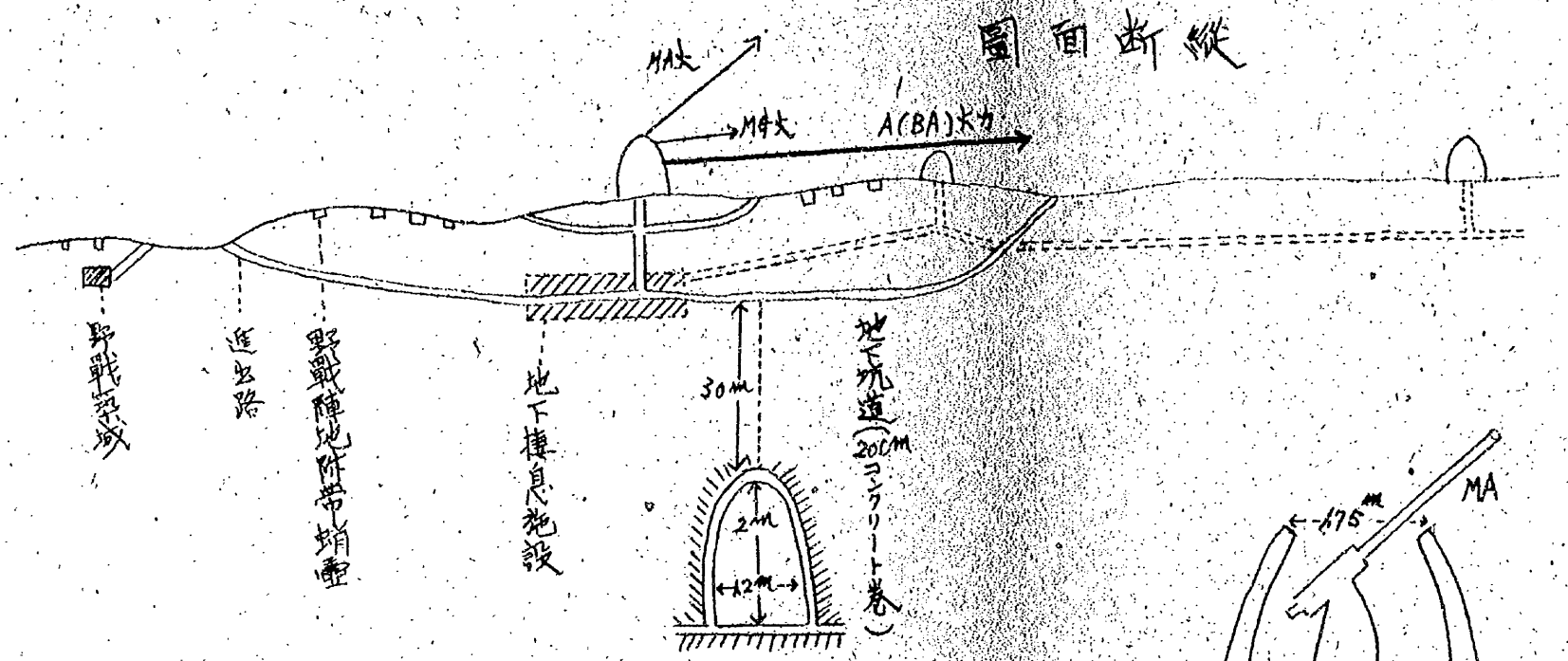


其五 野戰陣地(鼠穴陣地)

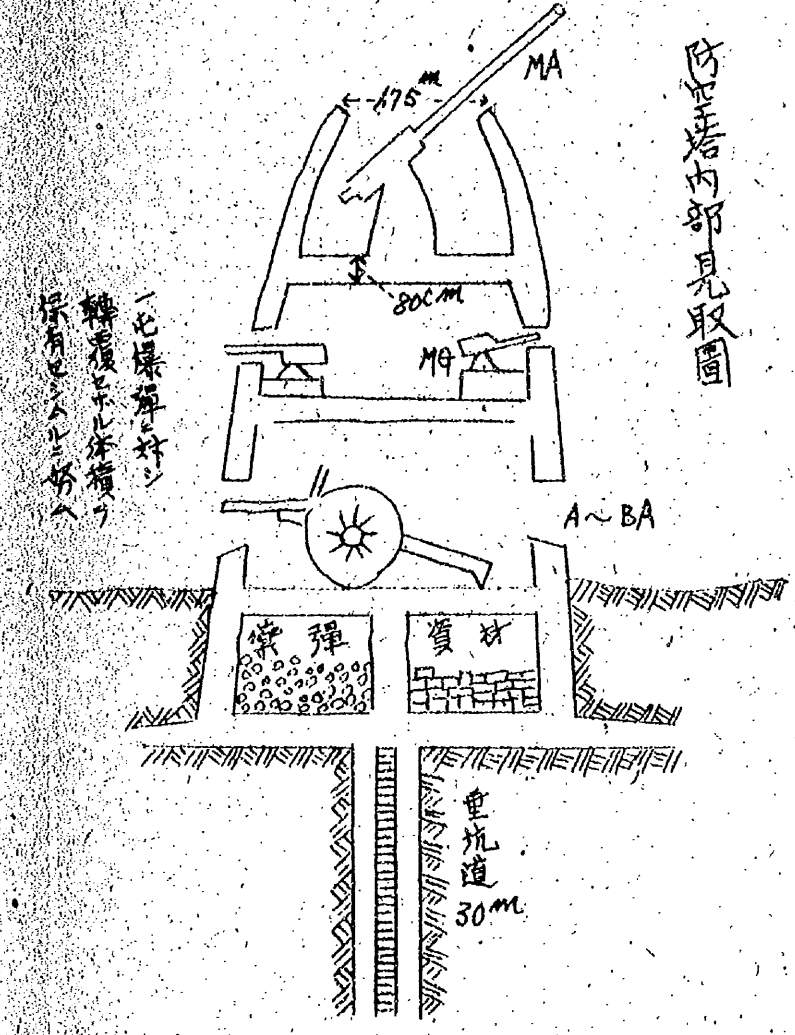
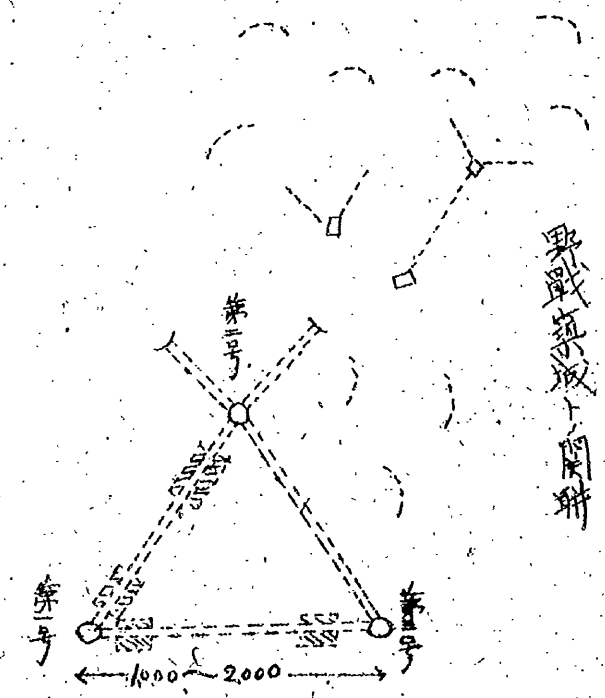


要領
 一見エケル陣地ヨリ見エホル大カヲ谷場ス
 二各人ヲ高度ニ分散配置ス
 三三ノ米以内ニ於テ射撃ヲ開始ス
 四弩ヲ敵ヲヤリ過シテ背後ヨリ射撃ス
 五一人一殺ヲ目標トシ先ツ戦フ
 六各人ハ午製ノ潜望鏡ヲテ候敵ス

備考
 十日間ニテ完全ナルモノヲ作り得(水ノモカ用件)
 故二月ニテ三箇所ノ準備ヲ為シ得



断面図



野戦陣地内部見取図

目的
 一 敵陣地攻撃撃破
 二 野戦陣地へ骨幹

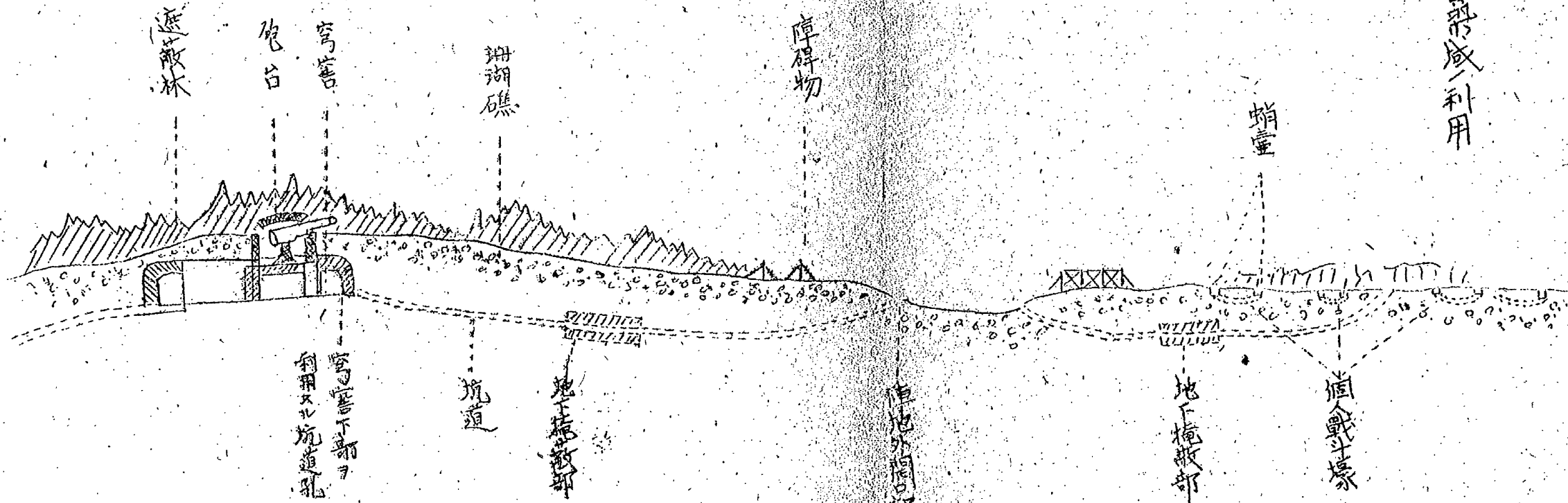
要領
 一 三基以上一隊トシテ数群ヲ以テ相互支援ス
 二 野戦陣地ト密ニ関係セシム

其ノ四 永久陣地(防塔陣地)

大武山永久陣地補強

其三

永久築城利用



界戰陣地

一目的

砲台彈藥トナレテ顧慮シタテ
廣々前地ニ於ケル戰鬥ヲ實施ス
ニ施設

一砲台官舎下部ヨリ砲台外ニ
伸スル坑道ヲ掘作ス

二坑道所々開口部ヲ設ケ戰鬥
員ノ出入戰鬥資材ノ補給等ニ
供ス

三前地廣々氣穴陣地ヲ設ケ
戰鬥要領

一前地ニ於ケル戰鬥ニ徹底ス
二敵進退ニ從テ砲台ノ近接戰鬥
施設ヲ活用ス

註

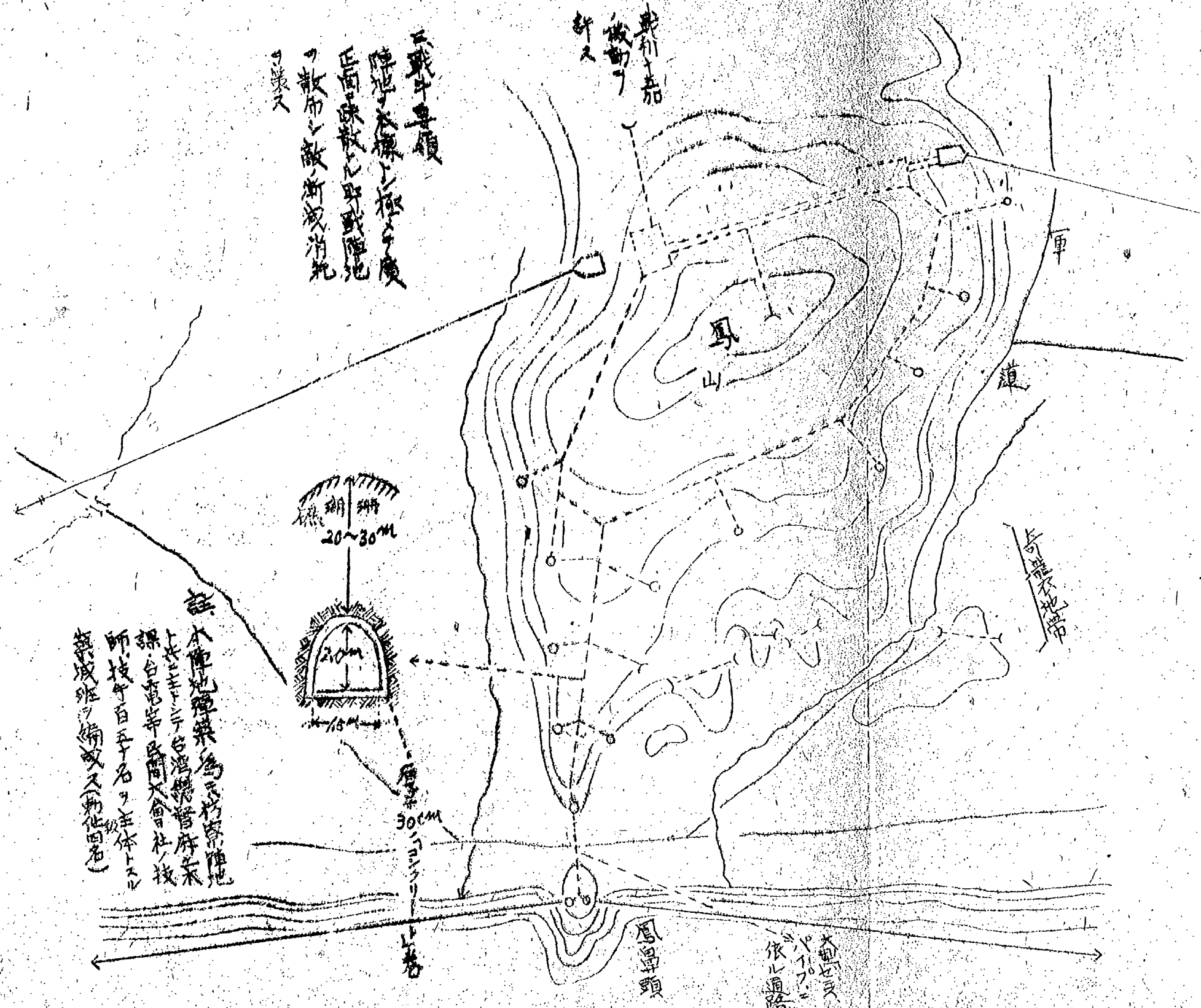
珊瑚島ノ珊瑚礁ナルヲ以テ
一道地下ニ穿孔スルニ比較
的容易ニ堅固ナル掩蔽施設
設ク構築シ得

鳳巢頭軍築城陣地要圖

其一 半永久築城一例（軍築城陣地）

一目的 歩兵一聯隊ヲ基幹トシ連合部隊ニ對シ約四月間敵ノ包圍下ニ戦ヲ持續シ得ル

- ニ施設
- 1. 地下坑道 一五〇米餘
 - 2. 坑道ニ門ヲ用テ密ニ正面、砲塔三六、軍道四〇〇米
 - 3. 坑道ニ珊瑚礁下約三〇米コンクリート蓋ヲセトス
 - 3. 鳳巢頭陣地ト地下ニ依リ連絡



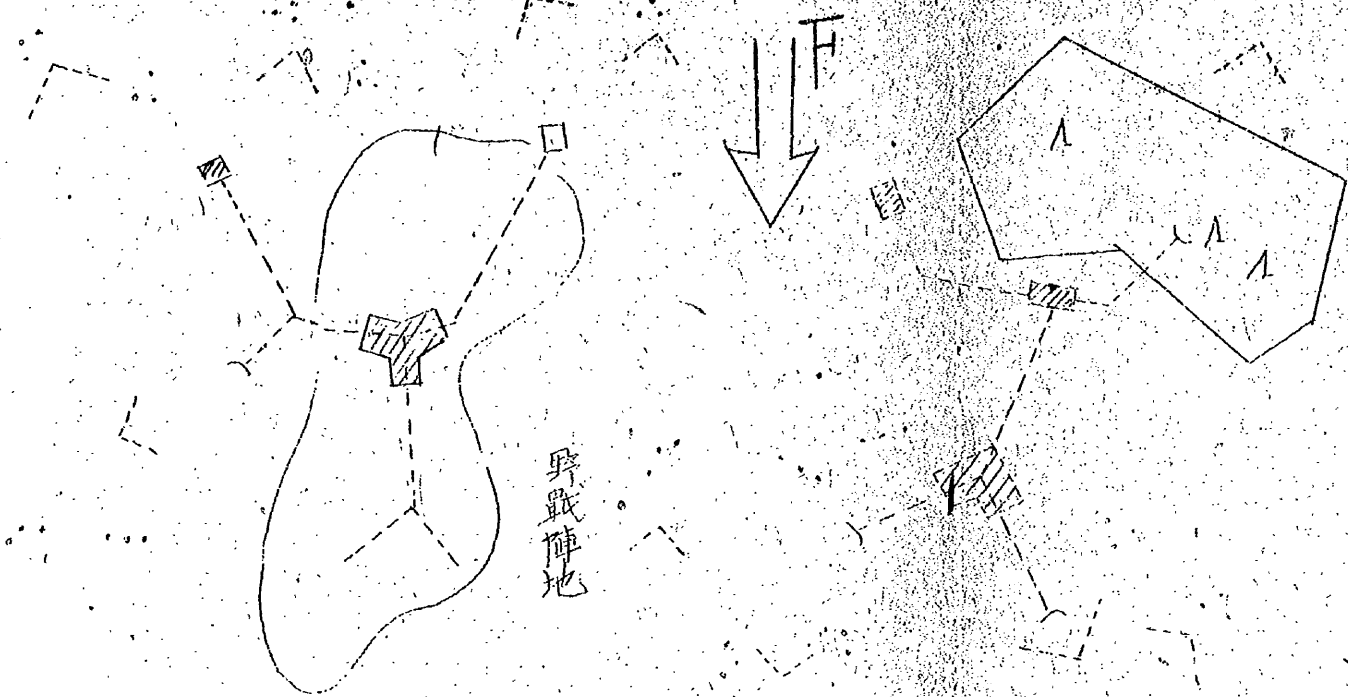
三戰中要領
陣地ヲ築キテ敵ノ侵入ヲ防
止シ敵ノ侵襲ヲ拒ミ
散布シ敵ノ漸次消滅
ヲ謀ル

此小陣地建築為ニ竹筒陣地
トシテモテ各連隊營房未
築合宿等民間大會社ノ技
師技師百五十名ヲ主体トス
築成後ヲ備置ス（別紙同右）

附圖

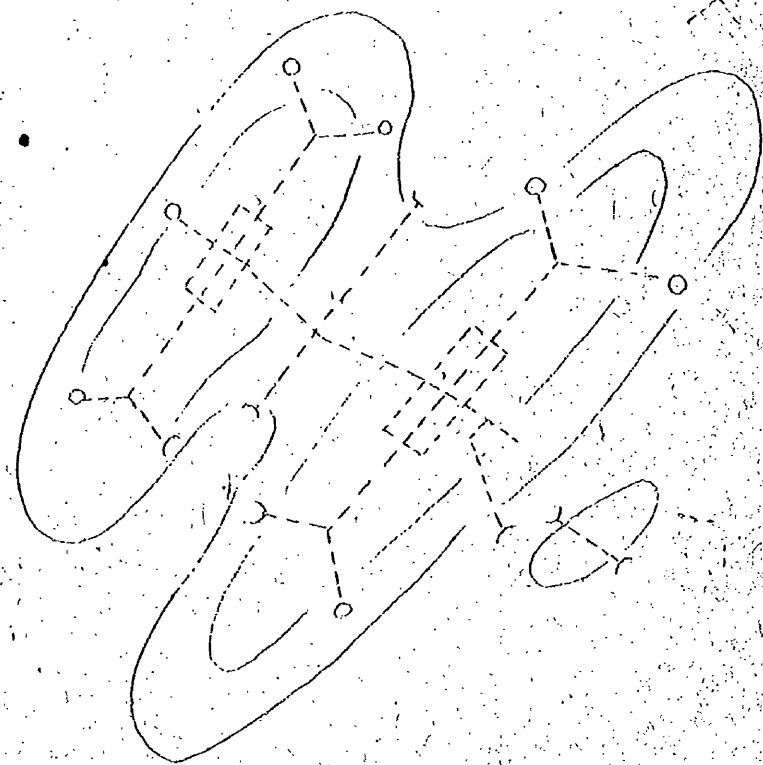
台灣山嶺城構想一例

具一陣地一般配置



野戰陣地

一、要領
 永久陣地ヲ以テ抗戰ノ主体トスルコトナシ
 守兵ノ大部ハ廣ク前地ニ分配配置シ
 敵ノ漸減消耗ヲ図ル
 二、強度
 永久陣地ハ努メテ地下三十米ニテラシム
 野戰陣地ハ車井ヲ分散配置ニ依リ損
 害ヲ軽減ス



永久陣地

註

陣地施設者ハ掩蔽部
 地下道
 洞穴陣地及地下掩壕